

坂の上通信

平成二十九年九月二十五日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文芸部(四〇三演習室)

第30回体育祭 閉幕

白組が一年連続で勝利

9月13日水曜日、第30回体育祭が行われた。前日まで天候は悪かったが、当日は晴れ。絶好の体育祭日和となった。

白組も赤組も白熱した戦いをくり広げ接戦となったが、3012対2622で、今年も白組が優勝した。毎年注目を浴びる種



熱走が見られたクラス対抗リレー決勝(女子)

学校の「顔」にインタビュー



今回は、1年3組の担任で理科担当の沖本先生にお話を伺った。

「どんな高校生でしたか。」

「部活動に熱心に取り組んでいました。朝早くから、夜は先生に追

い出されるまで、部活動ばかりしているような高校生でしたね。とにかく学校が楽しかったです。

「学校の先生になろうと思っただけですか。」

「高1の時の担任の先生によくしてもらって、こんな先生になろうと思ったからです。理科の先生になろうと思っただけです。」

「美高生に一言。遊ぶときには遊び、勉強するときは勉強して、ONとOFFの切り替えを大切にしてください。」

「美高生に一言。遊ぶときには遊び、勉強するときは勉強して、ONとOFFの切り替えを大切にしてください。」

「美高生に一言。遊ぶときには遊び、勉強するときは勉強して、ONとOFFの切り替えを大切にしてください。」

長縄跳び 学校一は41回

長縄は、美高生であれば誰でも一度は参加したことのある競技だ。皆が協力し、工夫しあって、最も多く跳べた回数を競う。

1年生は6分間、クラス全員で行い、2・3年生は2分間、選ばれた15人で行う。タイムアップ間際で跳び始めても失敗するまでは有効とみなされるので、その時の団結力の高さは他の競技の比ではない。また、練習の時に多く跳べたときの喜びは格別だ。

今年、1年6組が30回、2年5組が41回、3年3組が34回を記録し、それぞれの学年で1位を獲得した。少し地面につく程度



各クラスの技と心が一つになる競技、長縄



まりが見られるようになった。本番ではどのクラスも笑顔で楽しく踊り、体育祭をより盛り上げていた。創作ダンスの最優秀賞には、2年5組が選ばれた。

今回は、1年4組の担任で家庭科担当でもある今田先生の机を取材した。写真はクマのぬいぐるみと「いまだ」と刺繍された名札である。机には、ほかにも可愛い小物や行事の際に撮った写真などが飾られていた。その中でも写真の二つの小物は特に気が

取材の最後に「手作りのぬくもりに囲まれて暮らしたい」と夢を話してくださいました。

今号でも扱ったフォークダンス。この言葉の意味をご存じだろうか。フォークダンスは「民族舞踊」と訳され、その土地に伝わる踊りの総称である。広義には盆踊りや神楽のような日本の踊りも含まれるが、日本では、一般的には外国から紹介された踊りを指すことが多い。▼日本で踊られるものは欧米のものが多く、アフリカやアジアのものはない。GHQの占領政策により、戦後普及活動が行われたという経緯もあって、米国経由のものが多く踊られている。▼ポピュラーな楽曲としては「マイム・マイム」「ジェンカ」などがある。体育祭につきものの競技だと言えるが、なぜか男子校ではあまり見られない競技だそう。▼美高では、既成のものではなく仲間と協力して作り上げるという価値もある。ここで見せた団結力を、修学旅行でも発揮してほしい。

お気に入りポイントが手作りであるというところで「手作りの物はぬくもりがあって癒される」と今田先生は話す。とにかく手作りのものが大好きな今田先生。



部対抗 陸上部に軍配

午前の部の最後にはクラブ紹介リレーおよびクラブ対抗リレーが行われた。美高の多くの部活を一度に見ることができこの競技は、保護者にも生徒にも人気の高い競技だ。それをユニフォームやクラブTシャツを着て、自分たちの部を精一杯アピールしていた。

一方、対抗リレーは男女別で行われた。脚力を競う種目で、参加の中心は体育系部だ。自分が直接参加しなくとも友人の部を応援したり、また各部の個性あふれる工夫を見つけているなど、様々な楽しみ方がある。昨年度に続き、男女とも陸上部が圧倒的な脚力を見せつけて一位の座を手にした。

部対抗 陸上部に軍配

編集後記

3年生が引退して、われわれ新聞文芸部は1年生1人、2年生2人の計3人となった。新聞文芸部は部員募集中だ。興味のある人はぜひ、新聞文芸部へ来てほしい。